

市川市の取り組み



◎下水道(汚水)整備の背景

市川市では、昭和36年度から下水道(汚水)の整備をはじめ、菅野・真間地区、市川南地区及び行徳地区等で整備を行ってきました。しかし、下水道普及率は近隣市と比較して低くなっています。この理由としては、外環道路、都市計画道路の整備遅延等により、道路の下に整備される千葉県の下水道管(松戸幹線、市川幹線)の整備が完成していないため、市の北西部・北東部の多くの地区が未整備となっているからです。

◎今後の予定

▽北西部地区

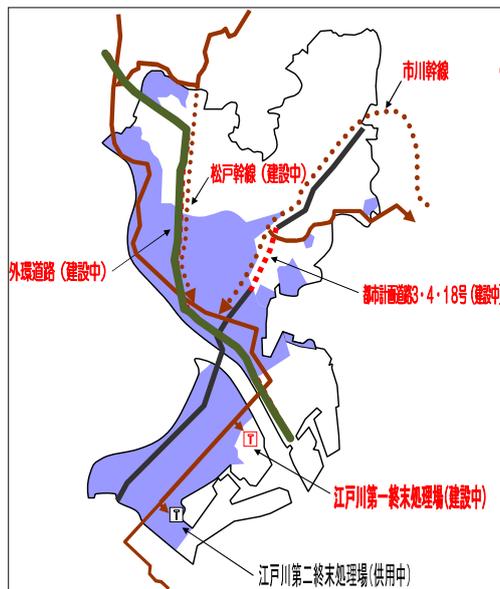
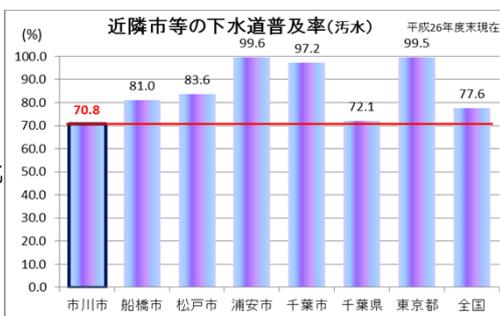
平成29年度末の外環道路の完成にあわせて、千葉県では松戸幹線を外環道路の下に整備していますので、この供用に合わせて北国分地区、東国分地区、中国分地区で順次整備を進めています。

▽北東部地区

千葉県では都市計画道路3・4・18号の下に市川幹線の整備を進め、平成27年11月に供用されました。現在、北方地区、南大野地区で順次整備を進めています。

▽菅野・真間地区

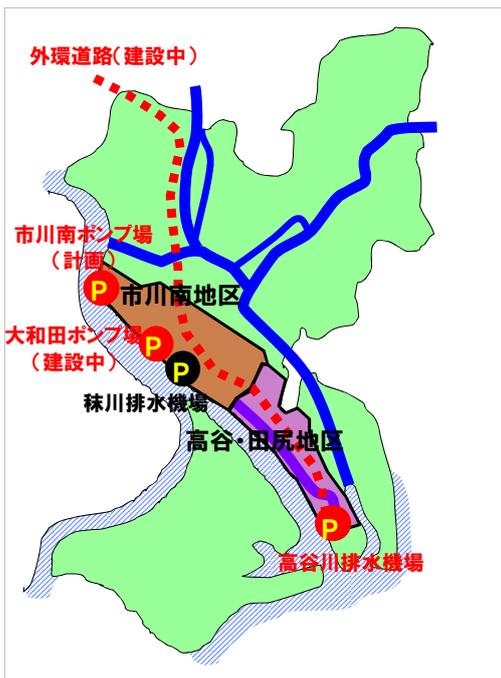
菅野・真間地区では整備から40年以上が経過しており、施設の老朽化が目立ってきているので、現在、計画的に長寿命化対策を行っています。



◎浸水被害の背景

市川市では昭和30年代後半から、人口増加とともに急激に市街化が進展しました。市街化の進展により地面がアスファルトやコンクリートに覆われたことで、これまで地面に浸透していた雨水が短時間かつ一気に水路に集中するようになりました。このため、水路の排水能力が追いつかず、浸水被害(いわゆる都市型水害)が起きるようになりました。

※河川や水路の改修だけではなく、市街地からの流出を抑制する総合的な治水対策を行っています



◎今後の予定

▽市川南地区

市川南地区の雨水は水路網を流れて株川排水機場から江戸川へ排水されています。しかし、市街化の進展により大量の雨水が短時間で流れ込むようになり、水路やポンプの能力が足りず排水が追いつかない状況です。現在、新たにポンプ場と効率的に雨水を流すための幹線管渠をつくっており、排水能力を増強することで当地区の治水安全度を向上させます。

▽高谷・田尻地区

高谷・田尻地区の雨水は水路から高谷川へ流れています。市街化の進展による雨水流出量の増大により排水能力が追いつかない状況です。

現在、高谷川河口部には千葉県が建設した高谷川排水機場が平成27年4月から稼働しています。これに合わせて、効率的に高谷川に排水するため、新たに外環道路の下に幹線管渠をつくっており、排水能力の増強により当地区の治水安全度を向上させます。

